

兔缺ノ名ハ病源候論ニ出ヅ、淮南子ニハ缺唇ト云ヒ、博物志ニハ唇缺ト見ユ、本邦ニテハイクチ
 トモ、又ハヅクチトモ云、其形狀ノ兔唇ニ似タルユエ、兔缺ト名ケタルナルベシ、妊娠ノ時ニ、兔肉
 フ食ヒ、或ハ兔ヲ見ルトキハ、其兒必ズ缺唇ヲ患ルト、漢ノ頃ヨリ説來レドモ、信用ス可ラズ、一説
 ニ、兒胞衣ノ内ニ在ルトキ、居様アシクシテ、自ラ爪ヲ當テ裂ルト云フハ、尤無稽ノ言トス、此ハ駢
 拇枝指ナド、同様ニテ、自然ニ生レ附モノナリ、青柳村ニ兄弟四人兔缺ニ生レタル者アリ、此症
 人中ノミ裂ケ、鼻下ニテ止リタルハ、至テ輕症ニテ治シ易シトス、或ハ鼻孔ノ内へ裂ケ込モアリ、
 或ハ齧肉及ビ上腭マデ裂モアリ、或ハ人中ノ側左右ニ筋ニ裂ルモアリ、或ハ齒牙ノ突兀ト聳出
 テ療治ヲ施シ惡キモノアリ、術ヲ施スニハ、二三歳ヲ尤良トス、初生ト成人トハ療治ニ直シカラ
 ズト云フ説アレドモ、予和卿本間ハ初生ヲモ二三歳ノ者ヲモ數療治スルニ、又妨ルコトナキヤ
 ウニ覺ユ、

〔太平記 二十二〕畑六郎左衛門事

物ハ以類聚ル習ヒナレバ、彼時能ガ甥ニ所大夫房快舜トテ、少シモ不劣惡僧アリ、又中間ニ惡八
 郎トテ缺唇ナル大力アリ、

〔老人雜話 下〕一柳監物、缺唇也、人指合を云へば、事の外怒る、晉の符賢に似たり、

〔駿臺雜話 二〕朝がほの花一時

翁鳩巢も、其歌にならひて

天地にうけしまことをそのまゝに、咲てはまほむあさがほの花、中まことに、世話にいふ、兔
 唇しんの嘯うそも、心なぐさみにて侍る、

〔倭名類聚抄 病 三〕喎僻 説文云、喎 口蛙反、或作喎、和名久知由賀無、口戾也、病源論云、喎僻則言語不正也、

〔箋注倭名類聚抄 病 二〕玉篇、喎同上、醫心方、喎同訓、新撰字鏡、喎訓、由加牟、靈異記、喎斜同訓、中所

喎僻